



本部委員会の審議内容

公益社団法人 鉄道貨物協会

第7回 利用促進委員会 (H24.1.11)

平成23年度第7回利用促進委員会を開催し、年間テーマ『情報システムの高度化による社会インフラとして災害に強い輸送体制に関する調査研究と提案』、『12フィートコンテナの増トンの可能性と課題の検討』及び『次年度テーマ』についての審議を行いました。

A. 年間テーマ

『情報システムの高度化による社会インフラとして災害に強い輸送体制に関する調査研究と提案』

審議内容

『望ましい鉄道貨物情報システムのあり方およびフィージビリティの検討』

今回の委員会では、現状における鉄道貨物情報システムにおける課題やその課題の改善策等に関してとりまとめられた資料に基づき、審議を行いました。審議項目は、下記のとおりです。

1. 現状における鉄道貨物情報システムにおける課題
荷主企業および利用運送事業者に対するヒアリング調査の結果、現状における鉄道貨物情報システムに関して、いくつかの課題が指摘された。
 - a. JR貨物情報システム(IT-FRENS&TRACE、HP上の情報)においては、①情報の精度の向上 ②情報提供のスピードアップ ③運行再開予定時間等の提供 ④輸送障害の原因の公表 ⑤その他等。

- b. 利用運送事業者情報システム(鉄道コンテナNAVI、鉄道Webサービス)においては、鉄道貨物情報に対する認知度が低い、利用が少ない等。
2. 上記課題の改善策については、
 - a. JR貨物側における可能な範囲での情報提供
 - b. 利用運送事業者における鉄道貨物情報システムのさらなる機能の拡充
 - c. 鉄道貨物情報の利用促進に向けた啓蒙活動等の観点からの審議を行いました。

B. サブテーマ

『12フィートコンテナの増トンの可能性と課題の検討』
審議内容

『12フィートコンテナの増トンに対するニーズとまとめ』及び『報告書(案)の検討』

今回の委員会では、12フィートコンテナの増トンに対するニーズに関し、「ヒアリング調査の概要」、「ヒアリング調査結果」、「まとめ」が報告され、当テーマの一連の調査に対する報告書(案)が提示され、それに基づき審議を行いました。

1. ヒアリング調査の概要
 - (1)調査の対象(利用運送事業者7社、荷主企業(含む物流子会社)8社、コンテナ供給事業者2社)
 - (2)調査項目
2. ヒアリング調査結果
 - (1)積載トン数の増加(増トン)に関するニーズの有無

- (2)積載トン数の増加(増トン)に関する荷主ニーズへの対応
- (3)積載トン数の増加のメリット
- (4)単位当たりの賃率が変わらない場合における、積載トン数の増加の希望の有無
- (5)積載トン数の制限を緩和する場合における課題

3. まとめ

等についての検討を行い、次回委員会にて最終審議を行ったなかで報告書をとりまとめていくこととなりました。

C. 次年度テーマについて

審議内容

平成24年度のテーマ選定にあたっては、事前に各委員より次年度テーマに関するテーマ案並びに意見の集約をいたしました。その結果、16件の案が提案され、今回の委員会では、その全てについて審議を行いました。テーマ選定につきましては、企画内容の最終審議を次回委員会にて行うこととなりました。

第7回 輸送品質向上委員会(H24.1.16)

平成23年度第7回「輸送品質向上委員会」は、今年度の年間テーマである『コンテナの臭気対策と機能向上に関する調査研究と提案』の「まとめ」の提案があり、内容の審議に入りました。

審議内容

1. 平成23年度年間テーマ『コンテナの臭気対策と機能向上に関する調査研究と提案』の「まとめ」について

審議では先ず始めに、ジェーアール貨物リサーチセンターの藤田主任研究員より、第6回委員会で提案し、審議された『コンテナの臭気対策と機能向上に関する調査研究と提案』に関して、その審議において各委員から指摘を受けた部分の修正を行い、改めて「まとめ」として提案がなされました。

A. 修正箇所の確認

前回の委員会で各委員から指摘された事項について、事務局にて検討の上、以下の様な修正を行いました。(抜粋)

- 指摘事項：「湿度と貨車の振動により、段ボールに擦れが発生する。バーコード・商品名が擦れていたらアウトである。」という記述に対し、「今やカートン自体が商品になっているのでバーコード・商品名だけ擦れている点が問題ではなく、傷がカートンにあるだけで商品としてアウトになってしまう。」という指摘があった。

(修正せず)：記載事項はヒアリング先での荷主企業からの見解のため修正はしないこととする。

- 指摘事項：「チェックリストは存在したが、形骸化し、現在では行われていない。」という記載に対し、「全駅でチェックリストが存在していたかのように受け止められるが。」という指摘

があった。

- (修正)：「ヒアリングした貨物駅において一時期、チェックリストは存在したが、形骸化し、現在では行われていない。」という表現に修正した。

- 指摘事項：「フォークリフトによって、計量する位置等で重量が変わってしまう。」とあるが、「重量が変わるということは無いはずだ。」という指摘があった。

- (修正)：「フォークリフトの機能について、その機種や操作の仕方によっては、計量する位置等で重量が変わることがあるのではないか。各駅に秤(看買)がほしい。」という表現に修正した。

- 質問事項：「臭気判定士の導入については非常に前向きな提案であるけれど、実際に臭気判定士の資格を取得するまでに、どれだけのコストがかかるのか。」という質問があった。

- (回答)：「臭気判定士の例として、公益社団法人におい・かおり環境協会で認定を行う国家資格としての『臭気判定士』(受験手数料18,000円)がある。」という回答があった。

以上の様に、指摘を受けた部分の修正については、各委員との確認作業を行い、平成23年度年間テーマ『コンテナの臭気対策と機能向上に関する調査研究と提案』の「まとめ」として、委員会全体の了解を得たところです。

2. 平成24年度年間テーマ選定について

平成24年度の年間テーマについては、以下の通りの案件が提起されましたが、身近な継続テーマと国際輸送関連のテーマに分れたことから、結論は次回以降の委員会に持ち越すことになりました。

- A. 「荷擦れ・荷崩れ対策としてのコンテナの内装及びコンテナの養生材に関する調査研究と提案」
- B. 「国際複合一貫輸送におけるコンテナの輸送品質維持管理・向上に関する調査」
- C. その他 8件

今後の予定

1. 本部合同委員会

平成24年3月5日(月) 日本貨物鉄道(株)3階大会議室

2. 本部委員会合同企業見学会

平成24年3月14日(水)

- ・安全運転中央研修所(茨城県ひたちなか市)
- ・福島臨海鉄道「小名浜駅」

まとめ

第7回「輸送品質向上委員会」は年明け初めての委員会ということで、事務局の方から「今年は辰年でもあることから昨年東日本大震災で落ち込んだ分、今年は「登り竜」といきたいものです。」といった挨拶がありました。

「今年もどうぞ宜しくお願い致します。」

以上